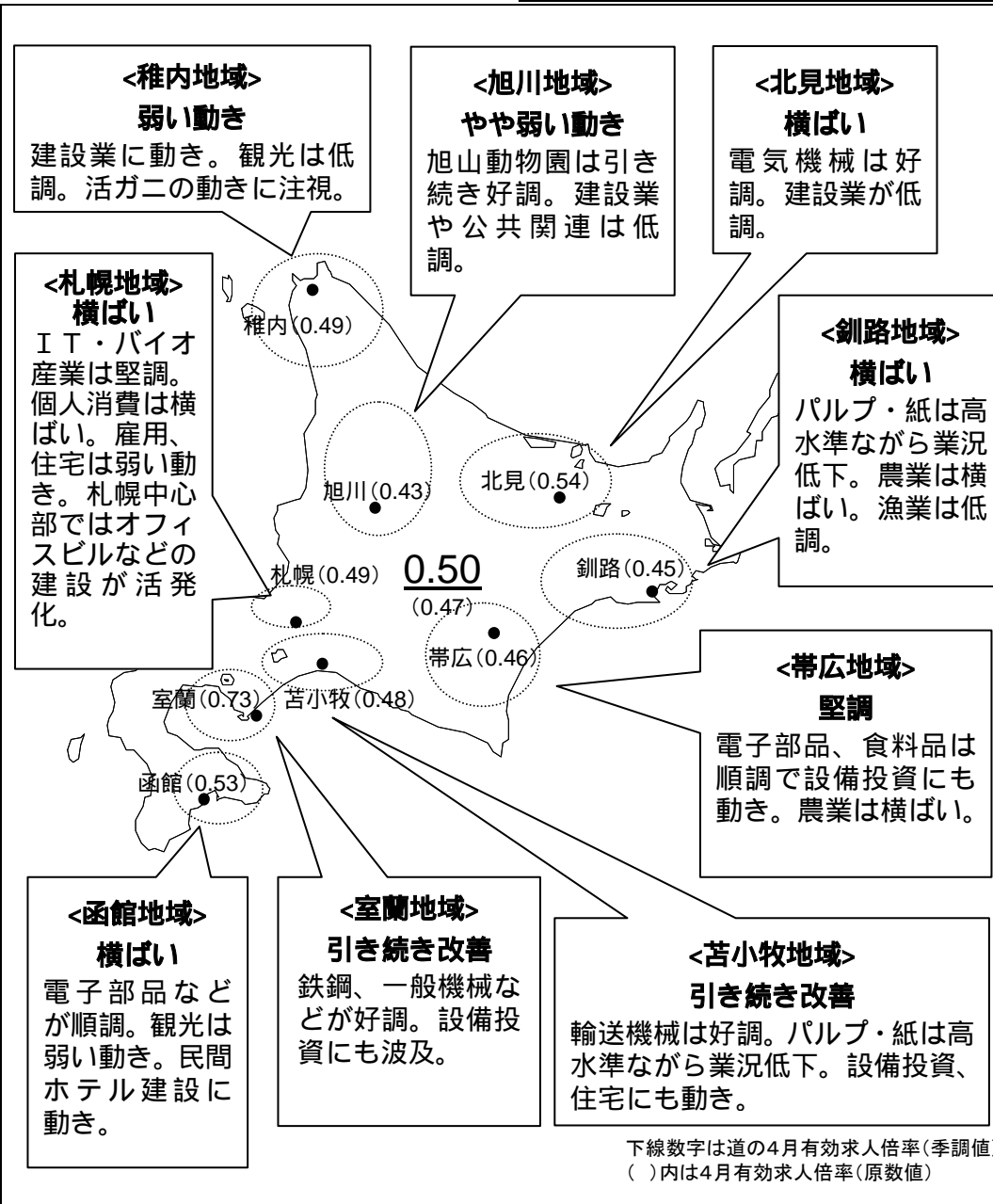


第20回地域経済産業調査結果の概要（地域別）

北海道経済産業局管内の経済動向



北海道地域の経済は、概ね横ばいで推移している。

1. 全体の動向

生産、個人消費は横ばい、雇用はやや弱い動きがみられるものの、設備投資は増加しているほか、観光は改善傾向。全体として概ね横ばいで推移。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばいとなっている。~

自動車関連向け鉄鋼、輸送機械が高水準を維持しているほか、パルプ・紙、電子部品・デバイスが堅調に推移。窯業・土石、金属製品など公共工事関連に弱い動き。

(2)設備投資 ~ 製造業、非製造業ともに増加している。~

輸送機械、一般機械、電子部品・デバイス、放送・通信、小売、リサイクル、情報サービスなどに動き。

(3)雇用情勢 ~ やや弱い動きとなっている。~

建設、小売、飲食などの求人減から新規求人数が4ヶ月連続で減少。月間有効求人倍率は0.66倍(19年1月)をピークに減少し、0.50倍と低水準。

(4)個人消費 ~ 横ばいとなっている。~

スーパーが堅調なほか、家電は順調に推移しているが、百貨店、自動車販売に弱い動き。

3. 地域経済のトピックス

自動車部品製造大手のデンソーが千歳市進出を表明。車載用半導体製品を2009年4月から生産開始予定。日本製鋼所室蘭製作所は、原発向けなどの大型鉄鋼部品の生産能力増強のため3年で500億円の設備投資を計画。原油・原材料価格の上昇は、パルプ・紙、食料品、運輸など多くの企業で収益に影響。

東北経済産業局管内の経済動向

東北地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

業況は横ばい。生産は緩やかな上昇傾向。設備投資は引き続き積極的な動き。雇用は地域差あるものの緩やかな改善の動き。個人消費は一部に弱い動きがあるものの持ち直しの動き。
全体として引き続き緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 緩やかな上昇傾向で推移。~

一般機械、輸送機械、電子部品・デバイスを中心に好調に推移。

(2)設備投資 ~ 引き続き積極的な動きがみられる。~

電子部品・デバイス、パルプ・紙、石油製品、情報通信業等で積極的な投資の動き。

(3)雇用情勢 ~ 地域差があるものの緩やかな改善の動き。~

有効求人倍率は0.79倍で、3か月ぶりに上昇。18か月連続で前年を上回って推移。
南3県(0.96倍)と北3県(0.60倍)で地域差あり。

(4)個人消費 ~ 一部に弱い動きがあるものの持ち直しの動き。~

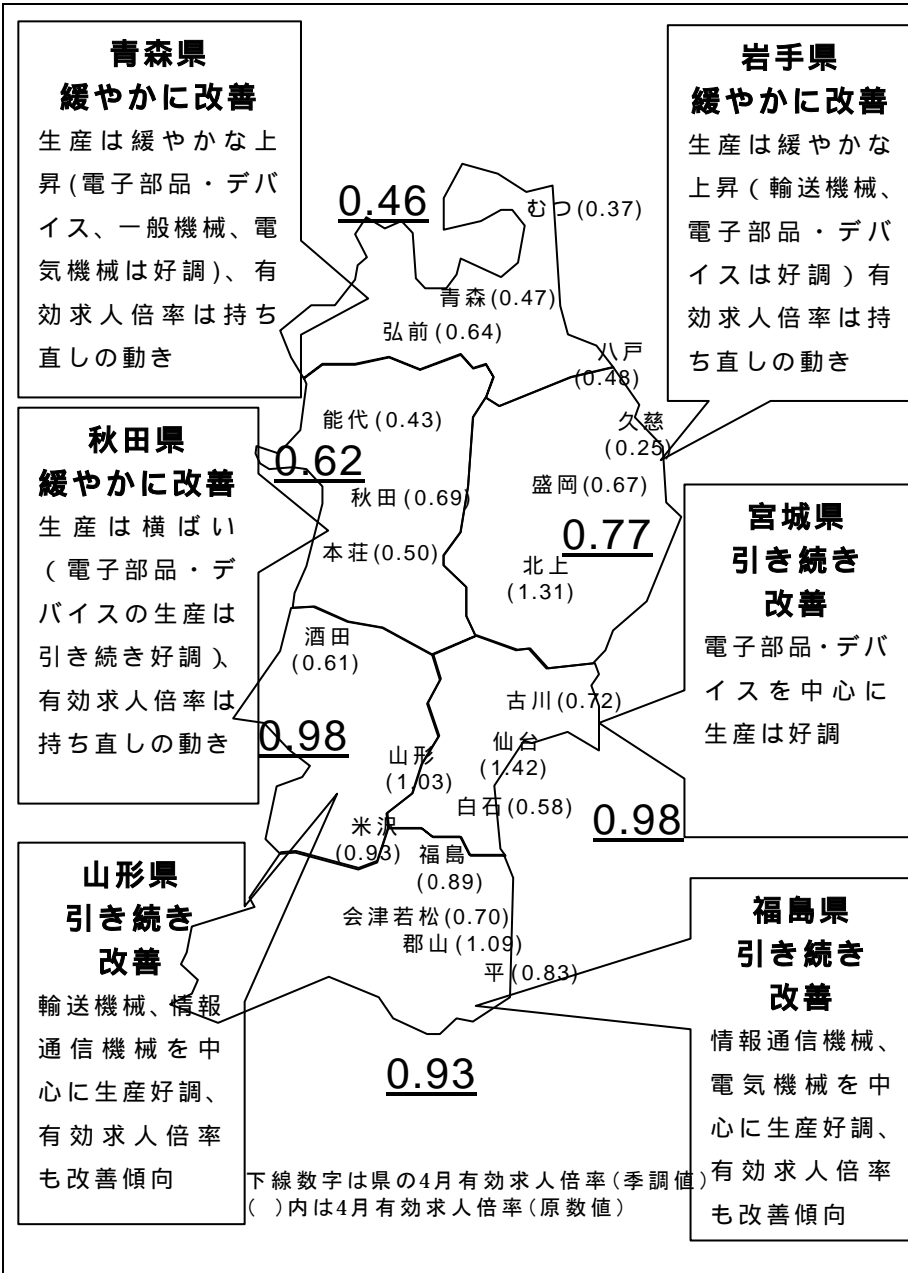
大型小売店販売額(既存店ベース)の減少等一部に弱い動きがあるものの、デジタル家電の販売が好調であること等引き続き持ち直しの動き。

3. 地域経済のトピックス

「とうほく自動車産業集積連携会議」が東北6県に拡大。

原油・原材料価格の上昇によりコスト増。製品価格への転嫁は不十分。

宮城県(19年3月の有効求人倍率1.01倍)では、若手、専門技能者、有資格者等の人材に不足感。



関東経済産業局管内の経済動向

関東地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

業況は緩やかに改善を続けており、生産は横ばい傾向、設備投資は増加しているとともに雇用は引き続き改善、個人消費にやや弱い動きがみられるものの、全体としてみれば緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばい傾向で推移している。~

電子部品が堅調。輸送機械等でやや弱い動き。

(2)設備投資 ~ 増加している。~

製造業全体で能力増強や新製品開発対応のために活発に投資。小売業においても新規出店や店舗改装等へ積極的に投資。

(3)雇用情勢 ~ 引き続き改善が続いている。~

製造業、非製造業ともに人手不足感から積極的な雇用確保に努力。

(4)個人消費 ~ やや弱い動きがみられる。~

コンビニ、家電量販店が堅調に推移しているものの、大型小売店、乗用車販売が伸び悩んだことから全体としてやや弱い動き。

3. 地域経済のトピックス

GWは、新名所オープンの東京が盛況な中、地域ぐるみで観光資源の発掘や体験型の新企画提供などに取り組んでいる観光地（日光、南房総等）も健闘。

大型倒産が減少する中、小規模企業の倒産が増加。特に非製造業や販売不振による倒産が顕著。

大手製造業の積極的な採用が影響し、中小企業では理工系新卒者の採用が困難。中途採用、OB人材の積極的活用や短期契約等の雇用形態に工夫、外国人研修生に負うところ大。

原材料は製造業の7割強の企業が価格上昇を懸念するなど前回より拡大、原油は一定の影響はあるものの前回並み。多くの企業が価格転嫁は困難なため経営努力で対応するもなお厳しい状況。

下線数字は都県の4月有効求人倍率（季調値）
()内は4月有効求人倍率（原数値）
は県庁所在地ハローワーク
は政令指定都市ハローワーク

新潟県 堅調
電子部品の生産が減少するも一般機械が増加。

群馬県 横ばい
輸送機械が増加傾向に一般感、一般機械が減少。

栃木県 堅調
輸送機械、情報通信機械の生産を中心に堅調。

茨城県 堅調
輸送機械、一般機械の生産を中心に堅調。

長野県 横ばい
情報通信機械の生産が増加。

埼玉県 横ばい
金属製品の生産が増加するも化学、電気機械が減少。

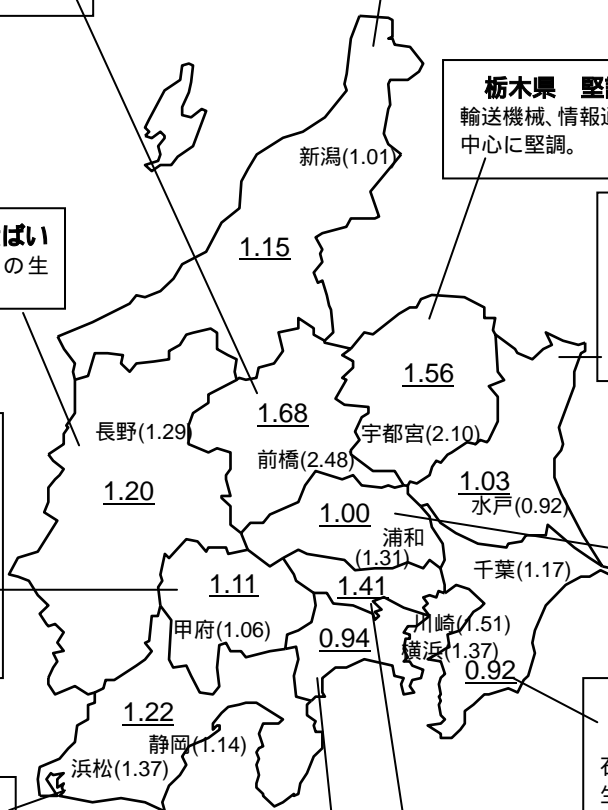
山梨県 やや弱い動き
電気機械の生産が増加するも情報通信機械、電子部品が減少。

千葉県 横ばい
石油・石炭製品の生産が減少するも化学、電子部品が増加。

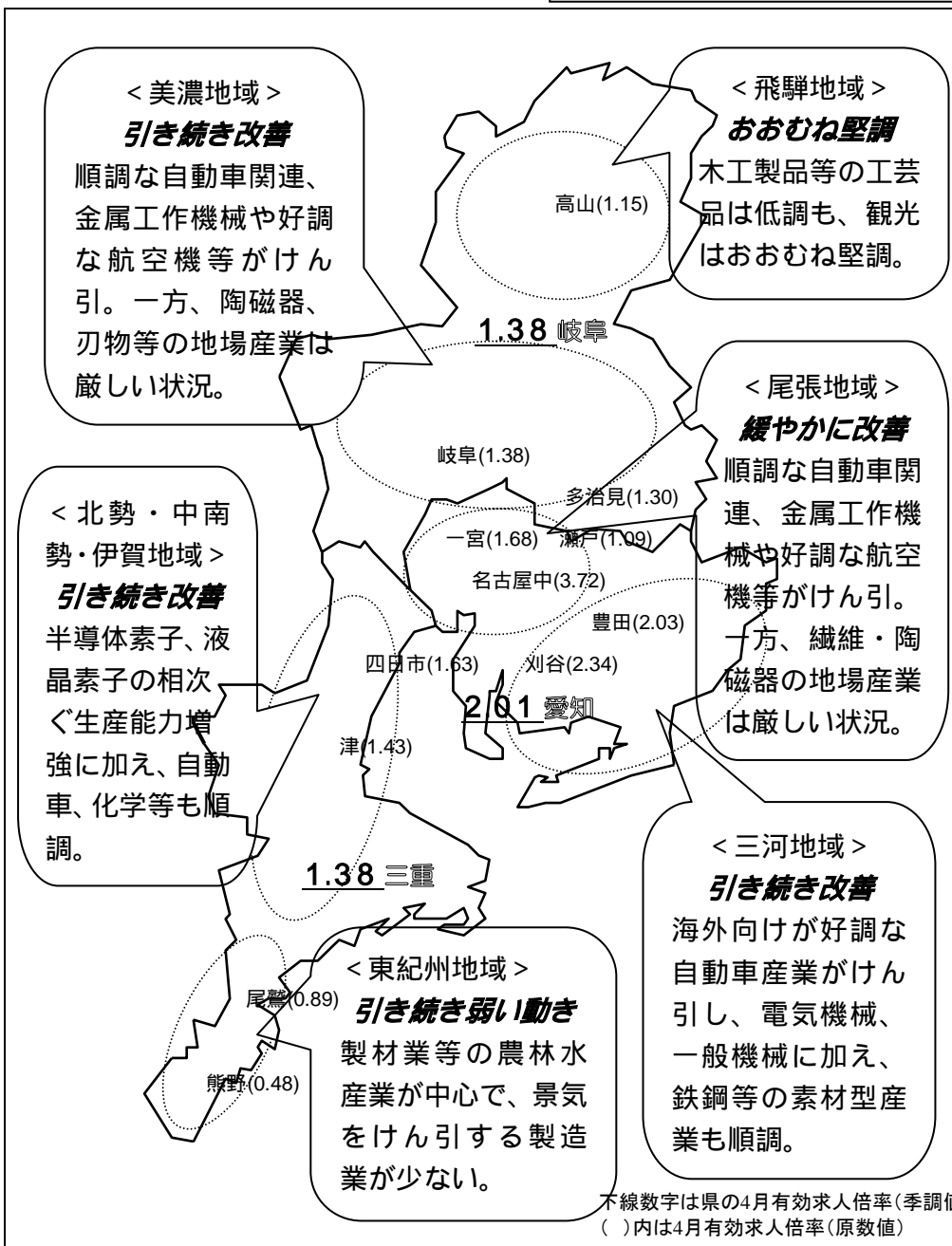
静岡県 堅調
輸送機械が増加傾向に一般感。

神奈川県 横ばい
化学の生産が減少するも電子部品が増加。

東京都 持ち直し
一般機械の生産を中心に持ち直しの動き。



中部経済産業局(東海地域)管内の経済動向



東海地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は高水準で推移、設備投資は幅広い業種で増加、雇用も労働需給が引き締まっており、一部で原材料価格などの高騰により収益に影響も見られるが、全体としては緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 高水準で推移している ~

増勢は鈍化しているものの高水準。今後は、自動車が新車投入、半導体素子や液晶素子がデジタル機器関連(携帯電話、携帯音響機器など)の旺盛な需要による生産が見込まれる。

(2)設備投資 ~ 増加している ~

電子部品・デバイスでの大型投資や自動車関連での高水準投資が続いているほか、名古屋駅周辺の再開発が引き続き進捗。

(3)雇用情勢 ~ 労働需給が引き締まっている ~

高水準の生産等を背景に、労働需給が引き締まっており、幅広い業種で人手不足感が拡大。

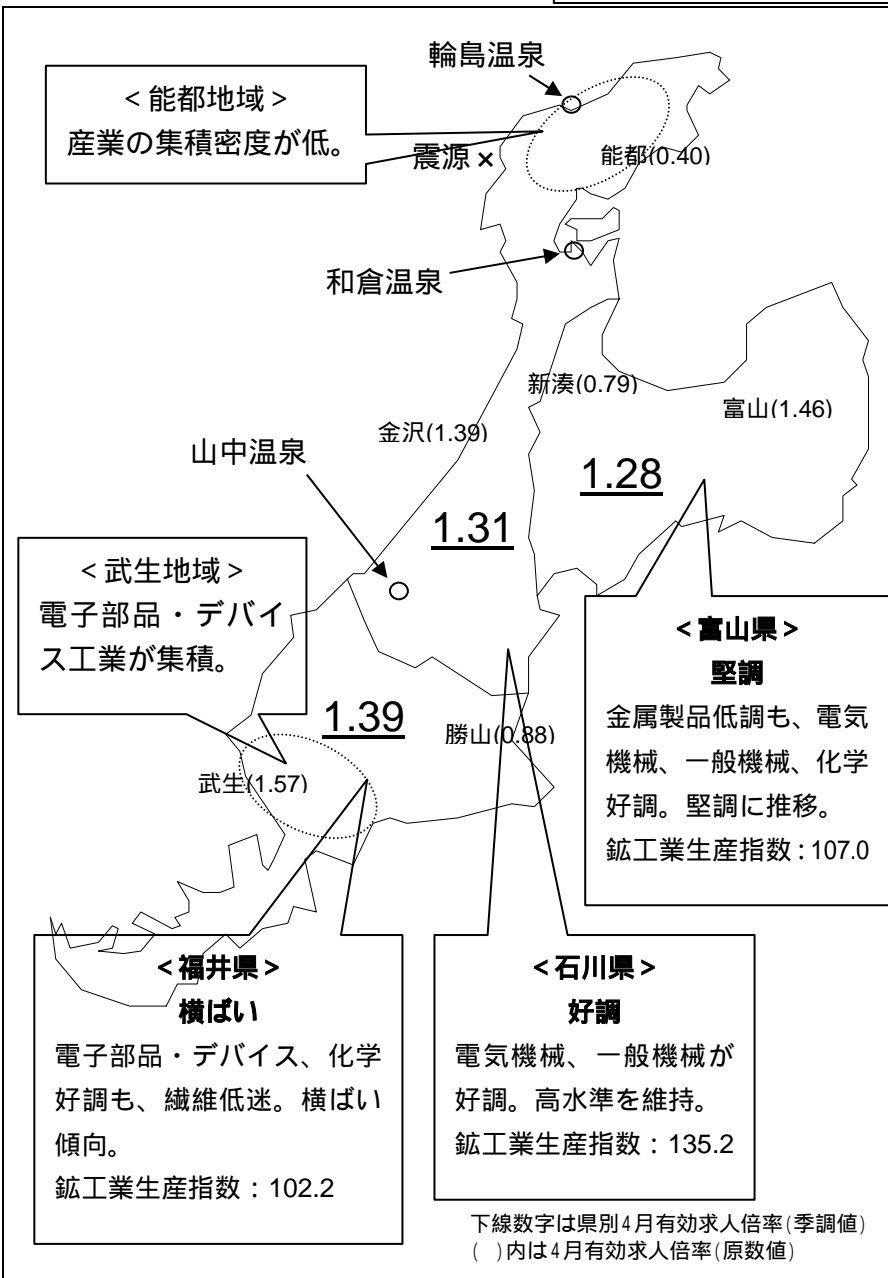
(4)個人消費 ~ 持ち直している ~

春夏衣料の伸び悩みが見られるものの、ブランド品などの高額商品や家電販売が堅調に推移しているほか、レジャー施設等も好調で、全体としては持ち直し。

3. 地域経済のトピックス

人材不足の深刻化により、自動種関連などで納期対応や需要増対応、新製品開発などに支障。非製造業では賃金上昇の動き。原材料価格などの高騰の影響により、自動車部品や鋳物、繊維、運輸などの業種では、コスト増分の十分な価格転嫁がなされず、収益を圧迫。

中部経済産業局(北陸地域)管内の経済動向



北陸地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は横ばい傾向。設備投資は堅調に推移。個人消費は持ち直しの動きが続き、全体としては緩やかに改善。今後は回復傾向が窺え、改善基調が強まる見込み。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばい傾向となっている。~

繊維、金属製品など一部業種に厳しさが残るものの、一般機械については高水準も、国内自動車関連投資の一服感から伸びは弱含み、電子部品・デバイスは横ばいも、在庫調整の進展から回復傾向が窺える。

(2)設備投資 ~ 堅調に推移~

一般機械、電子部品・デバイスなど自動車、IT関連向けに加え、繊維でも産業用資材に動き。小売業も、新規出店やリニューアルの動き。

(3)雇用情勢 ~ 改善が続いている。~

業績の回復を反映し、新規採用が拡大。

(4)個人消費 ~ 持ち直しの動きとなっている。~

能登半島地震の影響を受け、金沢地区では失速したものの、その他の地区では堅調に推移し、全体としては持ち直しの動き。

3. 地域経済のトピックス

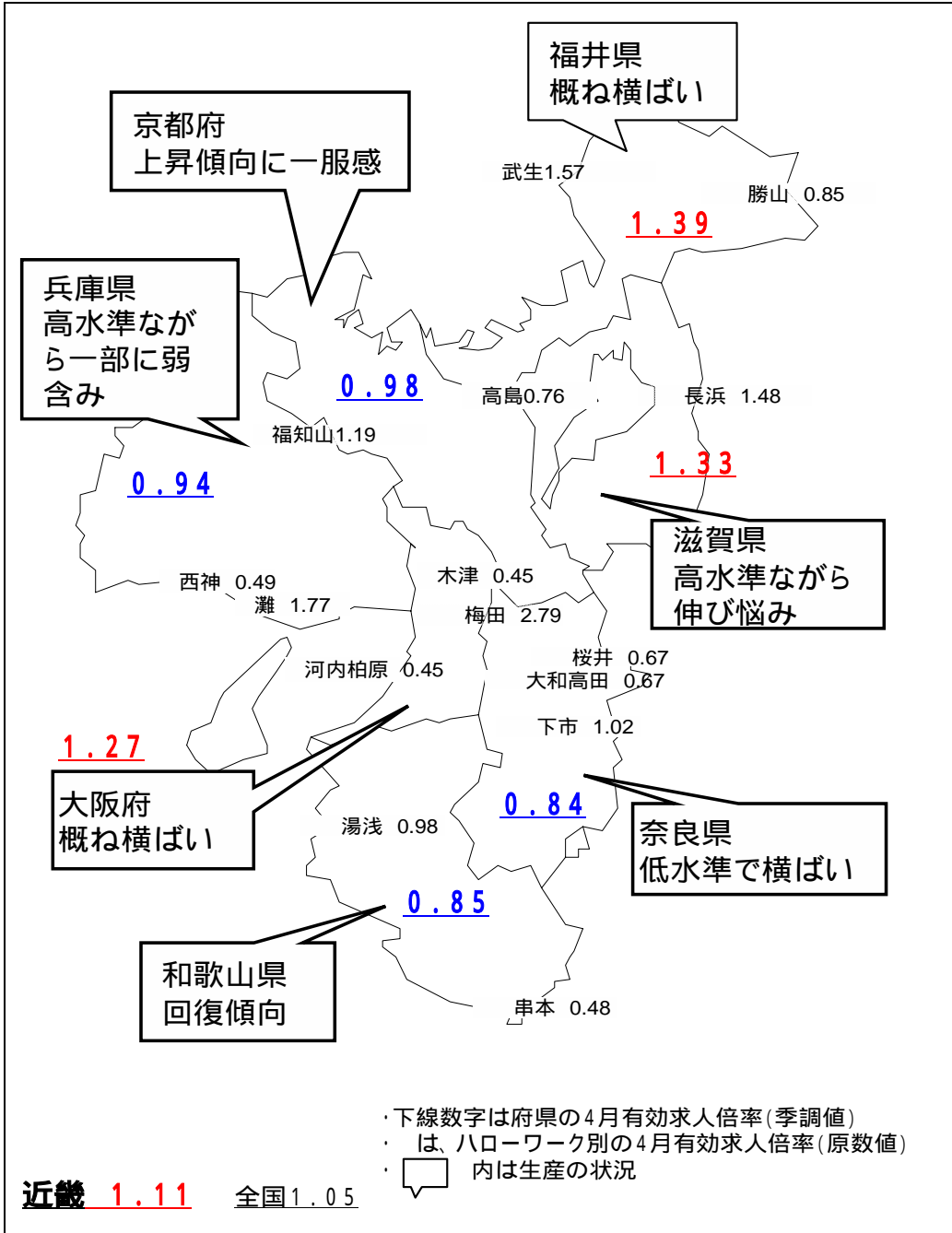
観光は、能登半島地震の影響で、被災地で宿泊客が激減。直接の被災地でない温泉地でも風評被害で宿泊客が減少するなど厳しい状況。

(4月・5月宿泊客対前年比、和倉 60%・ 32%、輪島 16%・ 43%、山中 14%・ 4%)

雇用は、技術系を中心に人材の確保が困難。正社員で確保できない分は、派遣社員等で対応も不足感から賃金は上昇。また、域外大手企業の採用活発化から、特に高卒(工業高校)の採用に不足感が強く、中小企業では必要な採用人数を確保できない企業が多く見られる。

アルミ等原材料価格の高騰は、円安も加わり、主力の金属製品の収益を圧迫。原油価格の高騰は、繊維・化学を中心に収益悪化懸念が拡大。

近畿経済産業局管内の経済動向



近畿地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

生産は横ばい、個人消費も概ね横ばいで推移しているものの、輸出が好調に推移し、設備投資も増加、雇用も改善するなど、引き続き改善している。

2. 個別の動向

(1) 生産 ~ このところ横ばい ~

設備投資や輸出の好調を背景に工作機械、建設機械などが高水準であるものの、携帯電話やパソコン向け電子部品に在庫調整の動きがみられ横ばい。

(2) 設備投資 ~ 積極的な企業が多く、増加している ~

製造業では鉄鋼や薄型テレビなどの積極的な能力増強投資に加え、生産性向上のための更新投資が続いている。非製造業では電力、ガスの発電所建設や百貨店の建て替え・増床など、引き続き積極的。

(3) 雇用情勢 ~ 改善 ~

団塊世代の退職補充などにより新卒市場がタイト。中小企業では必要な人材の採用が困難。また、正社員の有効求人倍率も緩やかに改善。

(4) 個人消費 ~ 概ね横ばい ~

薄型テレビや海外旅行などが好調に推移するものの、概ね横ばい。

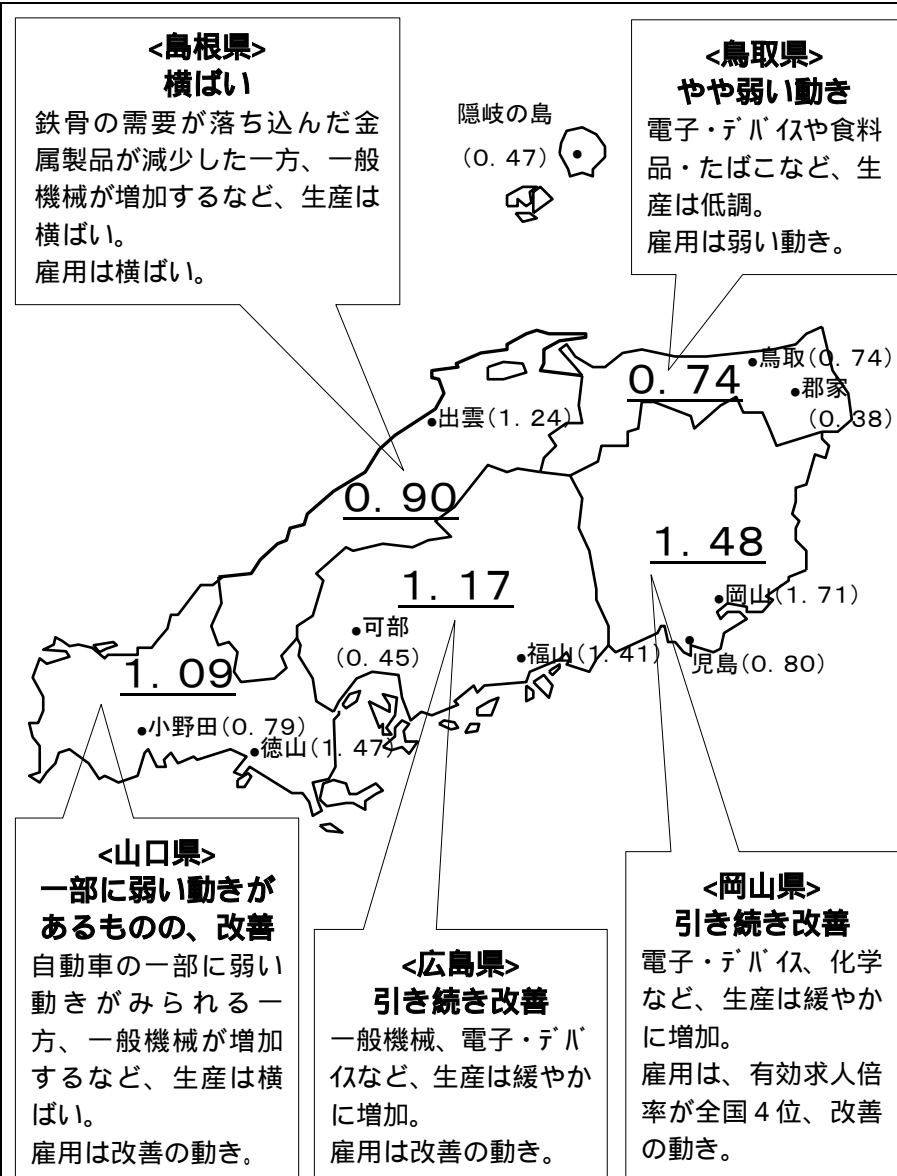
3. 地域経済のトピックス

観光についてはホテルの客室稼働率が上昇するなど、近畿全域で観光客が増加。

原油、原材料の高騰は、製品価格への転嫁が困難な中小企業の収益減少要因。

公共事業に依存する地域の中小建設業は停滞。

中国経済産業局管内の経済動向



下線数字は県の4月有効求人倍率(季調値)
()内は4月有効求人倍率(原数値)

中国地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

積極的な設備投資や堅調な輸出などを背景に、生産の一部に弱い動きはあるものの、雇用情勢は改善傾向にあり、緩やかに改善。ただし、地域間格差の拡大、中小企業を中心に原油価格上昇の影響が増大。先行きは、現在と同様の見込み。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 生産は緩やかな上昇傾向 ~

生産は、自動車の一部に弱い動きがみられるものの、鉄鋼や化学、電子・デバイス、船舶などが好調なことから、緩やかな上昇傾向。

(2)設備投資 ~ 積極的な投資の動き ~

製造業では、一般機械や輸送機械等、非製造業でも、小売業や情報通信業等で積極的な投資の動き。

(3)雇用情勢 ~ 改善傾向 ~

有効求人倍率は、山陽3県で1倍を超えて全国平均を上回るなど、引き続き改善。他方、山陰山陽の格差が拡大。その中で山陰2県にも差あり。

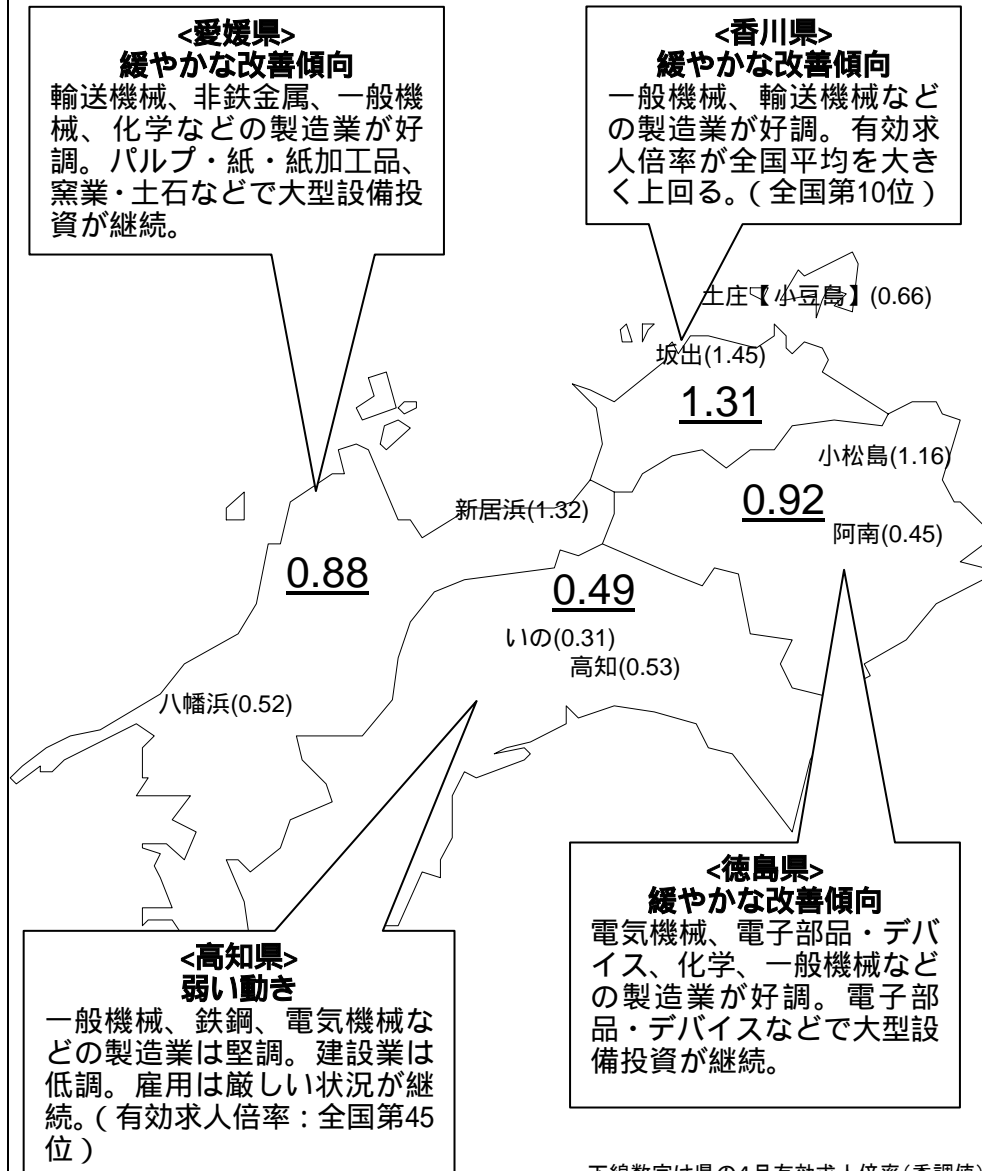
(4)個人消費 ~ 緩やかな増加傾向 ~

大型小売店の食料品や高額商品など、緩やかな増加傾向。

3. 地域経済のトピックス

7割以上の企業で人材不足感あり。特に20代後半から30代にかけての技術系、営業系人材が不足。また、大企業の積極的な新規・中途採用もあり、中小企業は大企業に比べ採用が困難。原油価格上昇分の価格転嫁が進まず、収益への影響が大きくなっている。中小企業等で経営への影響も懸念。

四国経済産業局管内の経済動向



下線数字は県の4月有効求人倍率(季調値)
()内は4月有効求人倍率(常用)

四国地域の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は緩やかながら上昇傾向、設備投資は増加傾向、雇用も概ね改善傾向となっているものの、個人消費が概ね横ばいとなっており、全体としては一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 緩やかながら上昇傾向で推移している。~

輸送機械、化学、一般機械が、国内外の旺盛な需要を反映し、好調に推移。電気機械、電子部品・デバイスなども、一部に弱い動きはあるものの、堅調に推移。

(2)設備投資 ~ 製造業を中心に増加傾向が続いている。~

パルプ・紙・紙加工品や窯業・土石などで高付加価値製品の増産に向けた大型投資が継続。

(3)雇用情勢 ~ 概ね改善傾向にある。~

一部地域では、依然厳しい状況が続いているものの、新規求人数が増加傾向にあることなどから、概ね改善。

(4)個人消費 ~ 概ね横ばいとなっている。~

旅行、コンビニは好調。大型小売店販売、自動車販売は低調。

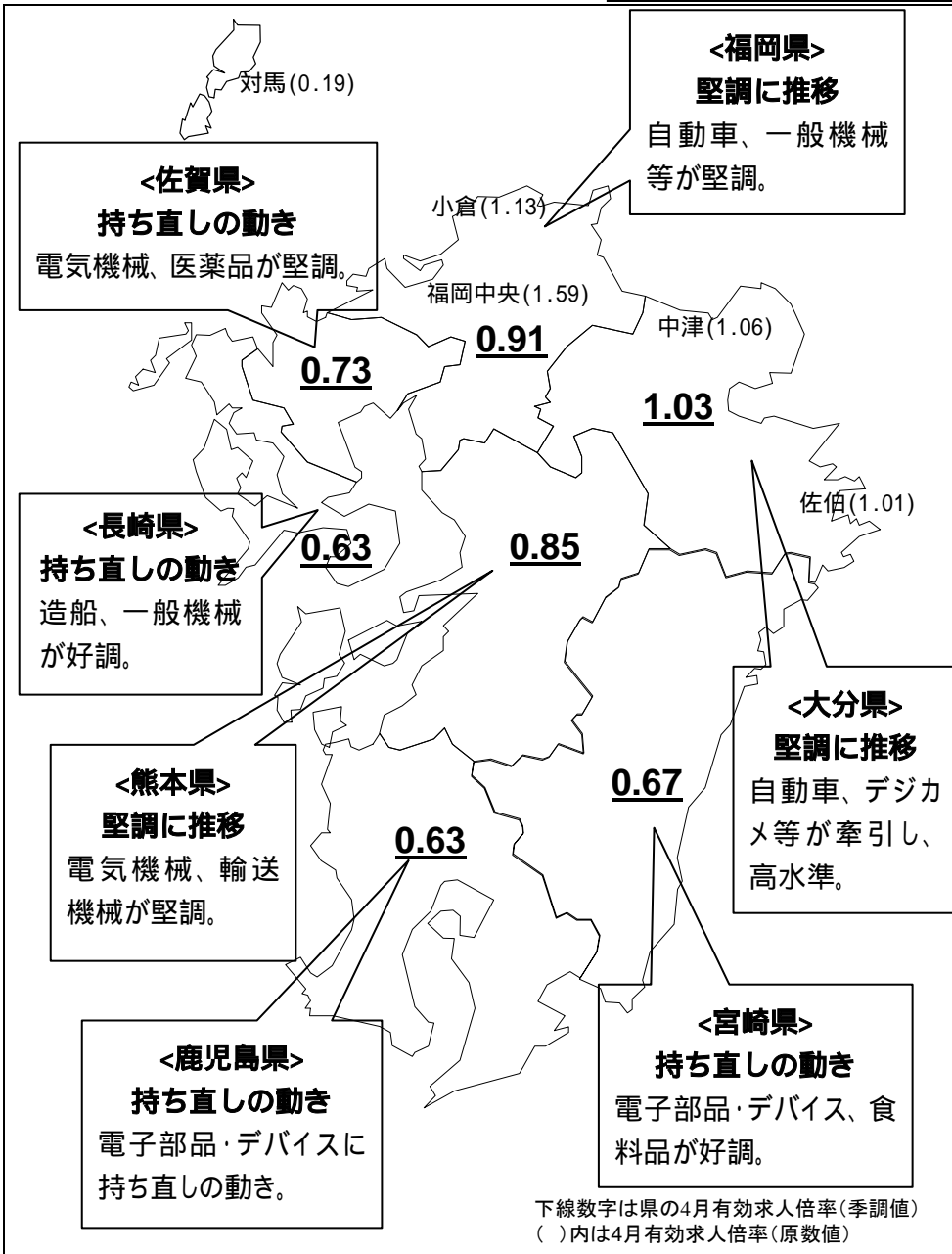
3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇は、パルプ・紙・紙加工品、繊維などの製造業を中心に影響度が拡大。

有効求人倍率の高い香川県では、一部の企業で多くの内定辞退者が発生するなど、採用に苦慮している企業が多くみられ、人材不足感が強い。特に、中小企業を中心に技術職や営業など専門性の高い職種が不足。

映画「眉山」の公開(5月12日)で、徳島市(ロケ地)を中心に観光客が増加。今年の阿波おどりの集客にも期待。

九州経済産業局管内の経済動向



九州地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は今後とも高水準を維持すると見込まれ、設備投資も堅調。雇用も改善傾向が広がっており、個人消費はやや持ち直しの動きがみられる。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 緩やかな上昇傾向で推移。 ~

今後とも、自動車関連や電子・デバイス等の増加が見込まれ、引き続き増加基調で推移する見込み。

(2)設備投資 ~ 製造業を中心に、高水準にある。 ~

自動車関連や電子・デバイス関連での新規立地や能力増強の動きが引き続き活発で、製造業を中心に設備投資は高水準を維持。

(3)雇用情勢 ~ 引き続き改善傾向にある。 ~

大分県、福岡県の有効求人倍率が高い水準を維持しており、長崎県、鹿児島県でも緩やかな改善がみられるなど、全体的に改善傾向。

(4)個人消費 ~ やや持ち直しの動き。 ~

旅行や教養娯楽関係などで、やや持ち直しの動き。

3. トピックス

- 九州沖縄農業経済推進機構、九州経済連合会、九州農政局、九州経済産業局で、九州農産物の共通ブランド化、輸出推進体制の整備、バイオマス事業の集中策を検討開始。

- 九州のものづくり基盤強化のため、九州に生産工場を立地している主要企業と小中学校段階からの早期ものづくり教育、物流コストの低減策、産業観光の推進等を検討開始予定。

- 原油等価格上昇の影響については、中小企業の製造業を中心に、収益面の悪化などを懸念する声が多い

沖縄経済産業部管内の経済動向

沖縄地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

4月まで7ヶ月連続で単月として過去最高の観光客が来沖するなど、観光需要は好調で、新規ホテル建設にも好影響を与えるなど、沖縄地域の経済を牽引している。

先行きについても、観光関連が堅調に推移し、その波及が民間工事や個人消費にも広がると見込まれる。

2. 個別の動向

(1)生産 ~全体として概ね横ばい。~

窯業・土石、食品は、横ばい。鉱業は持ち直している。一方、石油製品は低水準で推移し、金属製品は減少傾向にある。

(2)設備投資 ~製造業、非製造業ともに動きがみられる。~

製造業は、金型成形機械など既存設備を更新する企業が多い。非製造業は、小売りで新店舗の開設、電力でコールセンターの開設、運輸で倉庫の増設などの投資がみられる。

(3)雇用情勢 ~引き続き弱含み。~

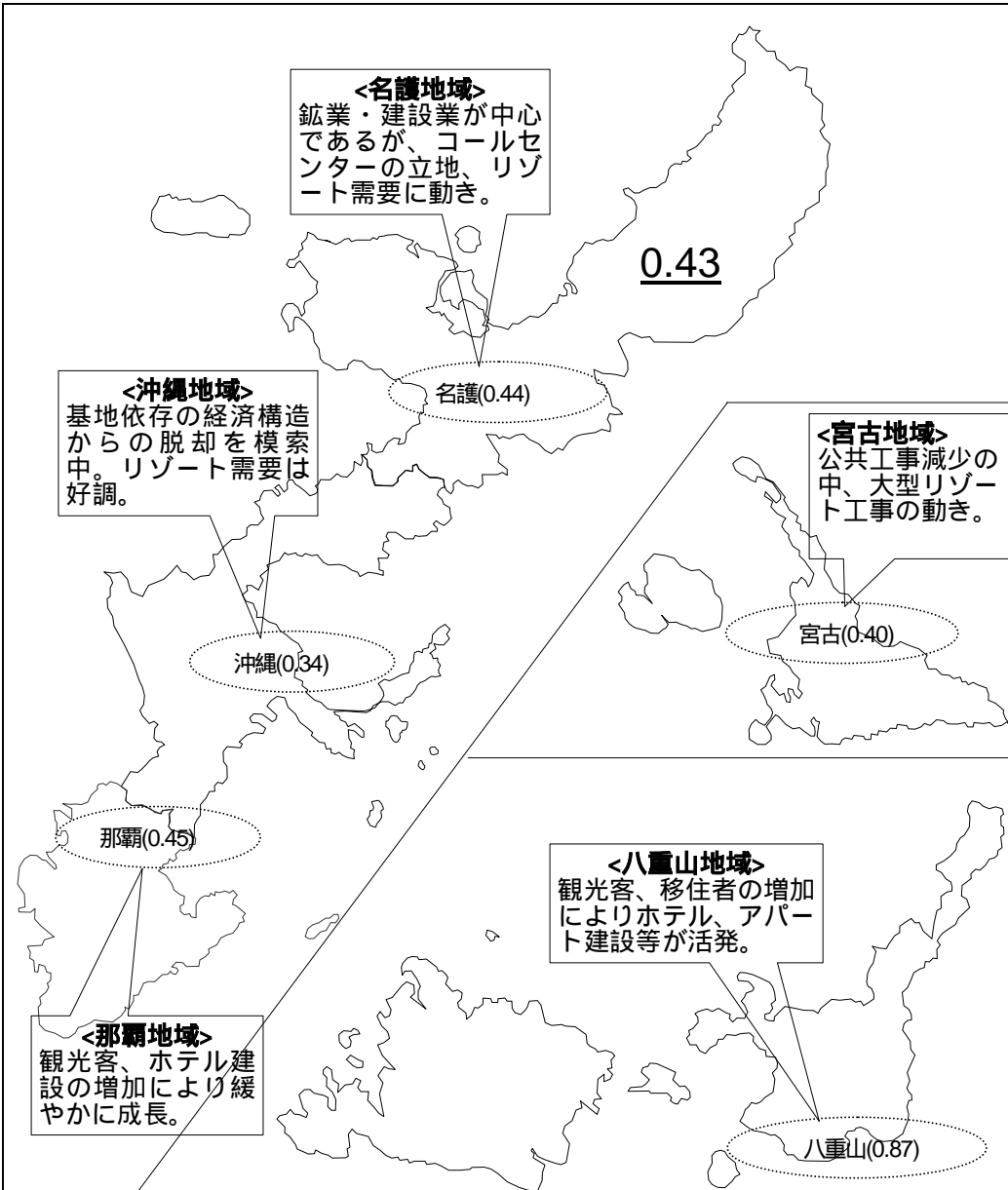
有効求人倍率は、やや持ち直しの動きが見られるものの、0.4倍台前半で低調に推移している。完全失業率も7%台後半から8%台前半で推移するなど、依然として高止まりの状態。

(4)個人消費 ~ 堅調に推移。~

百貨店は減少傾向、スーパーは堅調に推移。新車販売は微減。家電は引き続き好調。

3. 地域経済のトピックス

平成18年度住宅着工戸数が対前年度比13.5%増と過去最高。入域観光客数も対前年度比2.6%増、570万人と過去最高。原油価格については、製品価格への転嫁ができず厳しいとする企業が多い。また、一部離島地域ではレギュラーガソリン価格が160円/ℓ近くになり、生活への影響が増大している。



下線数字は県の平成19年4月有効求人倍率(季調値)
()内は平成19年4月有効求人倍率(原数値)